



2013 年 2月号

滑稽俳句協会会長 八木 健氏 に聞く 52

紅線編「滑稽俳句集」を読み解く 44 （聞き手 高橋素子）

高橋 > 新しい年を迎えて、もう十日余り……。会長は暮れから今年にかけて、お休みもなく、随分ご多忙の様でしたね。でも、とてもお楽しそうで、ほぼ四十年前の番組を「懐かしのFMリクエストアワー」として再現されたり、「アナウンサー朗読会」を開催されましたね。そう言えば、会長は『俳句王国の八木健』として全国的に有名ですが、『フリクの八木健』の方が、その年代の方々には、もっと印象深く親しみやすいお名前のようにですね。

会長 > フリクは、三十五歳で担当しましたが、三時間の番組でDJしながら、ずっとサインしていましたから、当時はアイドルだったんです(笑い)。

高橋 > 先日、一月十一日の午前〇時二十五分からと午前四時から、『また会えたね～復活！おれたちの“フリク”～』なるフリク同窓会ドキュメント番組が、NHK総合テレビで放映されましたね。真夜中でしたが、私も頑張って見せて戴きましたよ。姿形は皆さま多少お年を経ていらっしゃいましたが、お気持は昔のまま若々しく、懐かしく、幸せそうでした。本当に素敵な心温まる同窓会を、萬翠荘で企画提供なさいましたね。

会長 > あの企画は、当時のリスナーがいつまでも「フリク」を忘れないでいるのはなぜだろうと思ひましてね。そこを確認したいという気持から思いついたのです。この番組、「NHKオンデマンド」で検索して、「ドキュメント 20min.」で更に検索すると観られますよ。

高橋 > 確認の結果をお話戴きたいところですが…。それはまた、別の機会にお願いすることに…。楽しい話題でついつい横道に逸れてしまいました。それでは、本日は、紅緑編「滑稽俳句集」の「冬人事」の部、季語は「頭巾」からご解説よろしくお願い致します。

縄簾鼻でわけたる頭巾かな 木導

角のない人と生れて頭巾かな 也有

拾ふたを嗅けば坊主の頭巾かな 也有

町はづれいでや頭巾は小風呂敷 蕪村

猿に着せて我れに似たりや古頭巾 鳴雪

頭巾着て頭の瘤を隠しけり 瀾水

人に逢ふて急にぬげざる頭巾哉 李坪

一葉の頭巾被るや六地藏 牛歩

木兎の耳に與へん頭巾かな 紅緑

いつもいつも同じ頭巾の地藏哉 紅緑

貧乏な西洋人の頭巾かな 紅緑

知人に我をかくして頭巾かな 紅緑

会長 > 「縄簾鼻でわけ…」、頭巾は防寒、防塵などのための被り物ですね。身分を隠す目的にも使われました。縄簾は縄暖簾ですね。頭巾を被っていると、鼻が最先端に出ています。縄暖簾に立ち飲み屋は、今でも各所にありますが、頭巾でちょっと変装したような男がやってきて、頭巾を着用したまま簾をかきわけたのが滑稽というのでしょうか。

「角のない人と生れて・・・」、角がないからこうして頭巾を被ることができるのだという安心感と、角が無いことの劣等感をも感じているところが可笑しいですね。

「拾ふたを嗅けば・・・」、捨て頭巾を嗅ぐというちょっと可笑しい行為ですが、昔は「嗅ぐ」ことが判定の資料となったのです。魚臭いから魚屋だ、牛臭いから牛追いだ、香臭いから坊主だというように。

「町はづれいでや頭巾・・・」、「いでや」は「さて」という感じの感嘆詞です。小型の風呂敷をふたつ折にして頭に載せて頭巾がわりにしたのですね。風呂敷を頭に載せただけで旅人というのが可笑しい。

「猿に着せて我れに・・・」、猿に頭巾を被せたら猿の表情は判別しにくくなりますね。すると自分自身に似ている。ということに気付いた可笑しさです。人間が猿の仲間だということは知ってはいても、実際にそのことを実感した瞬間はぎくりとする筈です。「似たり」に「や」をつけて驚きの句になっています。

「頭巾着て頭の瘤・・・」、頭の瘤が最近できたもので、どうやってか隠したい。そのために頭巾が役立ったということですね。

「人に逢ふて急に・・・」、頭巾をしたまま挨拶をするのは失礼とばかり脱ごうとしても、すっぽり頭が入る袋状のものは急には脱ぐことができませんから、「猫にカン袋」の状態になるから可笑しい。

「一葉の頭巾被るや・・・」、六地藏の頭上に枯葉一枚、地藏が頭巾がわりにしていると見たのです。

「木兎の耳に與へん・・・」、木兎と書いて「みみずく」ですね。その小さな耳がなにやら寒そうに見えたのです。

「いつもいつも同じ・・・」、地藏は赤い頭巾を被っていますが、日ざらし雨ざらして色褪せていることが多い。いつも同じだと同情しているのです。

「貧乏な西洋人の・・・」、日本人の頭巾は高級な感じの生地を使うことが多いのですが、西洋人は実用一点張りですから、貧乏に見えるのでしょう。

「知人に我をかくして・・・」、頭巾の変装目的ですね。マスクして変装気分、サングラスしても変装気分になるのと同類ですが、頭巾によっては目だけしか出さないものもありますから。

高橋 > 頭巾で瘤を隠したり、変装の気分になったり、西洋人の帽子と比べてみたり、はたまた嗅いでみたり、古頭巾を猿に被せて自分にそっくりだと驚いてみたり……。頭巾ひとつで随分遊べるものですね。しかもそれを俳句に詠んで。一石二鳥というところですね。では、次の季語にまいりますね。季語は「麥蒔」で、これは一句だけですよ。

麥を蒔く花咲爺の子孫哉 子規

会長 > 「麥を蒔く花咲爺の……」、花咲爺……麦蒔きはそんな感じですね。

高橋 > 麦蒔きは花咲爺が灰を撒くように蒔くのですか？何だか楽しそうですね。次の季語は、「胼」、「輝」、「霜やけ」ですよ。これも一句ずつですので、続けてご説明下さいね。

なかなかに胼もきれざる皺手かな 碩布

輝に種麥二つはさまりぬ 紫影

霜焼の手より熬豆こぼしけり 子規

会長 > 「なかなかに胼も……」、頑丈な手で「ひび」もきれない手だということです。労働者の「皺」だらけの手を褒めたり蔑視したりしています。

「輝に種麥二つ……」、靴(あかぎれ)に「種麦」が挟まったというから大きな靴で痛そうですね。そういう靴には膏藥を火箸で溶かし込んだものです。

「霜やけの手より……」、霜焼けは、寒さで末端の血のめぐりが悪くなってできません。感覚が鈍るからこういうことになる。

高橋 > 胼、輝、霜やけ、どれもぞっとするものばかりですが、次の季語は「火鉢」です。ご説明下さいね。

門番は歌よみ顔の火鉢哉 呼丁

叱る人叱らるる人と火鉢哉 釣月

人民の控所にある火鉢哉 軟水

挨拶の頭さはる火鉢哉 一万

会長 > 「門番は歌よみ・・・」、火鉢の縁を撫でながらぶつぶつ言ってるのでしょうか。歌詠みもそんな感じです。

「叱る人叱らるる・・・」、可笑しい俳句です。相反する二種の者を同居させる。そこにドラマが生まれます。わたくしにも次のような句があります。

ふたあつの日傘ひとつは良く動く

「人民の控所にある・・・」、人民の控所？何処の国なのか不明ですが、火鉢は最近まで国民的暖房装置でしたから、まさに人民の休憩所には必要なものです。

「挨拶の頭さはる・・・」、火鉢に「ごつつんこ」という風景ですね。本日はようこそ。ごつつん。あちちち。お久しぶりで。ごつつんこ。

高橋 > 成る程、相反する二種のものを同居させると、ドラマが生まれるのです。勉強になります。では次の季語は「火燵」です。

飯櫃と猫と夫婦の火燵哉 與白

念佛も申し屁もひる火燵哉 無事庵

傾城は火燵のやうなものにして 紅緑

向ひ合ふて睨みくらする火燵哉 紅緑

巨燵して足伸ばしたる達磨哉 紅緑

会長 > 「飯櫃と猫と夫婦の・・・」、貧乏の句です。飯櫃と猫を炬燵代わりにしているので

す。「念佛も申し屁も・・・」、閑で朝から晩まで炬燵に居て動かない御仁なのでしょう。朝晩、横着にも炬燵で念仏を唱え、合間には放屁する。

「傾城は火燵のやうな・・・」、この句は奥が深い。作者にとっての炬燵の存在を句にしたとも、傾城の人生を詠んだとも。傾城はいろいろな人が触れる存在であるから炬燵と同じですね。炬燵の火は時間とともに老化して色褪せてしまいますね。

「向ひ合ふて睨み・・・」、炬燵に向かい合ってすることと言えば、「睨めっこ」ぐらいだというのですが、子どもの遊びというより大人の方が可笑しいですね。喋らない、喋るネタもないのです。一日、炬燵の番を夫婦でしていると考えてください。

「巨燵して足伸ばしたる・・・」、達磨は足がないのに足を伸ばした。実は怠け者のことなのです。とにかく、動かない横着者なのです。

高橋 > 流石、面白い、楽しいご解説ですね。思わず笑ってしまいました。勉強になります。でも、残念ながらお時間になってしまいました。最後に、ご好評の虎造節で、本日のインタビューを〆させて戴きたいと思います。

会長 > それでは、ひと節、お聞かせ致しましょう！

♪麦蒔きいいいのおお 終えて頭巾をおお

脱ぎとればあああ たちまち炬燵のおおおお

お守となるううう♪